

令和 6 年度（2024 年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新任教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語 4 技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT 教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT 機材を用いた授業研究の推進
 - (2) AL を取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して 4 段階（そう思う(4 点)・だいたいそう思う(3 点)・あまり思わない(2 点)・思わない(1 点)) で 10 項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

前年度まではマークシート方式で時間を指定してアンケートを行っていたが、今年度はグーグルフォームを使って期限内に各自が入力する方法に変更した。その結果、回答率が非常に低いクラスがあった。また全体に昨年度よりも低い評価となった。これは入力者数が少ないクラスによって平均値が大きく影響したためと考えられる。

中学、高校共にクラス担任は相談しやすく、適切なアドバイスをしてくれるという点が 0.3 マイナスとなった。次年度に向けて生徒への声かけや接し方を工夫したい。ただし声や話し方は聞き取りやすく学校行事には積極的にクラスと関わっているという点は中高共に高評価であった。担任の日頃の努力が高評価に繋がっており、今後もこの評価が継続できるように生徒たちと関わっていききたい。中学高校共に普通および実習教科どちらも昨年とほぼ同じ評価となった。1 人ひとりに公平に接している、小テストや課題提出は適宜行われ、正しく評価されているという項目のポイントがいずれも 3.5 以上あり、きめ細かい指導ができていることが分かる。今後はさらにきめの細かい指導を継続していきたい。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営 15 項目・教育内容 16 項目・生徒指導支援 6 項目・教員研修資質向上 5 項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の 4 段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～D の頻度を回答合計数に対する割合（％）で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

昨年度より 3.0 以上評価の上がった項目は、教育課程の「教育計画について」、財務関係の「財務に関する意識」「財政状況の把握について」、情報公開の「ホームページの活用状況」「授業公開状況」、危機管理の「役割分担について」、教育内容の人権教育「研究体制」、環境教育の「実践的態度の育成」、健康・食育の「健康・職に関する指導について」、「読書推進」、「学校行事」、生徒指導の「指導方針の一貫性」「生活指導について」「家庭との連携状況」であった。生徒支援の「進路指導について」も昨年より 2.3 向上している。教員の中に保護者と連携を取りながら生徒 1 人 1 人についてしっかりと指導できているという認識があることが感じられる、喜ばしい結果となった。今後も力を入れて生徒指導に努めていきたい。逆に評価の低い項目（2.0 未満）は教職員連携の「会議の有効性」、教員研修の「教員の資質向上」、教職員連携の「教員・教科間連携状況」が挙げられる。教員同士の連携が脆弱であるという結果をしっかりと認識し改善を心がけていきたい。また教員研修の「校内研修」、「校外研修」、といった項目評価も低い。教員の資質は生徒にも直結する問題であり、また近年の教育内容の変化が激しい時代にあっては必須のことでもある。このため教員間で授業見学、意見交換を行う機会を増やし、資質の向上に努めていきたい。また、今年度より iPad を導入し、全教員が使用できるようになったが、教育活動の「ICT 機器の活用」は昨年度より 0.5 減少していた。ICT 機器の授業での有効な活用方法を習得し、教育活動に反映させていきたい。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2025 年 10 月 6 日実施

（委員）校長・教頭・PTA 会長・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員
梅花学園法人総務部長

【令和 5・6 年度実施の教員自己評価について】

- ・開かれた学校作りとして地域交流が年々減っているように感じる。地域全体で学生を見守るという意味でも地域と学校との繋がりが密になるよう、行事などの取り組みに工夫をして地域と連携を取って欲しい。
- ・コロナ禍以前に行われていたボランティア活動がまだ完全に復活していない。少しずつコロナ禍以前の活動状態に戻していきたい。
- ・新しい制服を生徒がどのように着こなしていくのか、楽しみである。
- ・校内研修が充分に行われていないので、長期休暇などを有効に活用して行うようにしてはどうか。

【令和 5・6 年度実施の生徒評価について】

- ・クラス担任の「指導の中で「建学の精神」や「スクールモットー」を考える機会が多い」の項目が前年に引き続き一番評価が低いことは残念だ。次年度から学期聖句のしおりを作成し、生徒への周知を図る予定である。こうした工夫がキリスト教主義への理解に繋がって欲しいと考えている。
- ・クラス担任の評価が低いことは心配である。教員は生徒が求めていることを分かっているのか。
→評価の低かった教員に対しては今後管理職が面談や授業参観を行って改善を図っていきたい。
- ・次年度は豊中移転 100 周年という節目の年である。教育現場が目まぐるしく変化する昨今、梅花中学校高等学校がどのような変化をしていくのか楽しみにしている。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。 (2)新任教員育成制 度の導入を検討・ 実施 (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。 (2)新任教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新任教員を対象とした教員研修 を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機 会（外部講師での英会話・英検対 策講座）の継続。また、イングリッシュ ウォリスペースの利用促進やイングリッシュ シャワーの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価） 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。 (2)自己評価・教員研修「初心者等、経験の少 ない教員を学校全体でサポートする体制があ る。」の評価は横ばいである改善には至って いない。肯定的評価 70%以上をめざす。 (3) English Communication Day をリベラルア ーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の 機会を増やした。英検 2 級以上取得者を English Elite Member に認定しネイティブの特 別レッスンの受講を促す。中学・ハワイ、高校・ 中欧の海外修学旅行、国際専攻の海外留学を 実施した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 80% 以上に保つ。	(1) 47.7% 授業参観の回数を増やすこ とで充実を図る。 (2) 26.2% 5 日制導入に伴い土曜日に教 員研修や外部研修会への参 加を促すことで改善を進め たい。 (3) 73.8% 海外研修の再開やイングリッシュ ウォリスペースの活用法の工夫な ど、英語に触れる機会を増や す取り組みを継続して実施 する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・Wi-Fi 環境が整い iPad,chrome book を活用する授業展開や課 題設定を工夫する。 ・校内のメインサーバーを増強 し ICT 環境のさらなる充実を 図る。 (2)ICT 機材を活用しグループワーク やプレゼンテーションを実施し「主体的・ 対話的で深い学び」を実施する。	(1)2020 年度 Wi-Fi を整備、中学全生徒に iPad を、高校は 2022 年から chromebook を 導入し、スタディーサプリを導入した。 ・2022 年度より専任・常勤教諭にノートパソ コン、2025 年度より iPad を貸与。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)目標は達成できなかったが評価は上昇し ている。「主体的・対話的で深い学び」(アクティ ブラーニングの視点に立つ学び)に向けた教育を 行っている」の肯定的評価 70%以上を目指 す。	(1) 76.2% 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。 (2)54.7% 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化 (2)不審者への対応 マニュアルの改訂 (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。 (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2024 年度、3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に 対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。 (3)2019 より年 1 回のアナフィラキシー対応のためエ ビペソン使用講習およびてんかんの教員研修を 継続して実施する。救急救命講習を体育系ク ラブ員、教員対象に実施した。2024 年度前半校 外活動中の救急対応についてマニュアルを作成し た。評価指標は上記(2)と同様	(1)80.9% 防災対策に継続して取り組 む (2)(3)83.3% 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしてい

4. カウンセ セリン グ強化	(1)カウンセとの連携 強化 (2)不登校生徒への 対応強化	(1)カウンセと教員との懇談を定期的 に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対 応の教員を配置することで、不登 校生徒のクラスへの復帰をサポートす る。	(1)学期ごとに、支援が必要な生徒について教 員間での情報の共有を図る機会を増やした。 今後は教員間で共有のため頻度を上げる。 自己評価・生徒支援「カウンセリング・マインド」を取り入 れた支援体制がある。カウンセの活用が出来て いる。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネー タ-教員を配置している。教室への登校を目標 に保護者、カウンセとも連携し対応を強化す る。 評価指標は 上記(1)と同様とする。	(1)(2) 90.5% 目標を達成できた。今後も特 別支援委員会を継続して取 り組む。 様々な原因による不登校ぎ みの生徒が増加傾向にある。 ため、対応強化に継続して取 り組む。
5. 財務状 況の共 有化	(1)財務説明会の実 施 (2)コスト意識の改 善	(1)職員会議での財務説明会を実 施する。 (2)職員会議等でコストに対する 意識付けを喚起する。 ・節電 ・ICT 利用を促進し紙の使用量 を減らす。	(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛 け、たびたび機会を設けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務 状況について理解している。」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、 職員室の19時自動消灯を継続する。 感染症防止のため換気を重視したためエア コンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレ ス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状 況について理解している。」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1) 47.6% 継続して取り組む。 (2)45.2% (1)(2)とも昨年より高い評価 であった。